

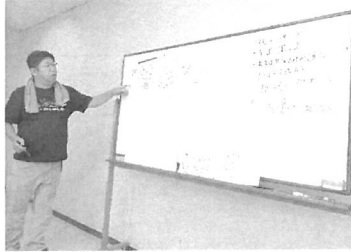
2024年11月1日

第30回全国交流集会現地実行委員会ニュース

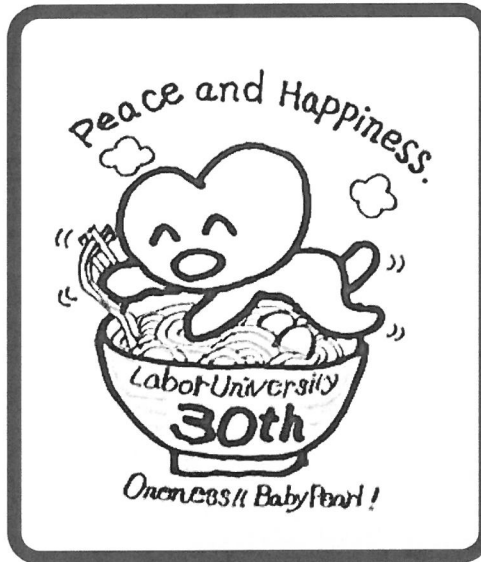
第2号



▲東口さん案「マナティとハートちゃん」



▲現地実行委員会での選定の様子



▲Tシャツデザインに決定した徳島県協・岸本さん案「うどんとハートちゃん」

Tシャツデザイン案決定!

おいでまいよ

第2号

■発行■
第30回
全国交流集会
現地実行委員会

■発行責任者■
三木 政孝

■編集■
編集記録班

10月13日、第2回現地実行委員会を開催し、これまでの経過と各専門班の状況を共有しました。今回は、30回目を迎える全国交流集会で販売するまなぶTシャツのデザインについて、四国各県の仲間が案を出し合い、投票によって決定しました。

様々な案が出るなか、徳島県協・東口忍さんの「マナティとハートちゃん」と、徳島県協・岸本和宏さんの「うどんとハートちゃん」が7票で並び、決選投票の結果、岸本さんの案に決定しました。

今後、ベビーボールさんに案を出し、実際にTシャツのデザインになる予定です。実際のTシャツになるのが待ち遠しいですね。

～四国ブロック各県協紹介～

香川県協

今から四国ブロック各県協の状況を報告します。まずは地元香川県協です。

香川県協のモットーは、仲間に寄り添い温かみのある運動です。人間らしい優しさと居心地の良いアットホームさで、河西姉妹とともに成長を続けています。その根底にあるのが継続された学習活動です。

現在、香川では先輩の退職者から地域の学習会をつくろうと、増田農園学習会を開催し続けています。内容は主に古典の学習会ですが、参加者が交代でレポートをしています。自身でレポートすることで、より理解がすすむからです。またそうすることで、次々に活動家が生まれた経過があるとともに、加藤久雄さんが作る料理に舌鼓を打ちながらの交流で親近感が増し、いろいろな活動の集約の場にもなっています。

昨年、今年と2年続けて四国ブロックのチューター養成講座で『資本論』学習に取り組みましたが、香川では以前から資本論研究会を継続して開催しています。『月刊まなぶ』の講座も連載中ですが、記事の元となる誌上学習会では、香川の参加者が一番多く、河西姉妹も積極的に参加しともに学習をしてきました。「継続は力なり」というものの、この継続が一番難しいものです。

河西姉妹が参加する場所には必ず井角操さん、竹内千代子さん、香川千秋さんが参加しています。互いに自然にそれが当たり前になっています。分かっているけど難しいことで、学ぶべき行動です。今後も仲間に寄り添いながらともに運動前進に向けて取り組みます。



演劇班より 演劇内容が決まりました！

四国ブロック演劇

「華やかさと力強さと過酷さと～城を支える石工たち～」

香川では古くから小豆島や塩飽(しわく)諸島、庵治町など、良質の花こう岩が取れることで有名です。これらはお城やお寺、神社などの石垣等に重宝され、現代でもさまざまな石製品に使われています。

戦国時代から讃岐(香川)の良質の石をめぐり、戦国大名がしのぎを削ってきました。今回、四国ブロックの演劇では「お城」にスポットを当て、その土台として数百年の時を超えても未だその形を維持している石垣づくりに関わった、今から400年前の石工労働者の姿を追っていくこととします。豪華絢爛で華やかなお城の裏で、それを支える、時代に翻弄される労働者の実態とは。乞うご期待ください。



▲借耕牛(かりこうし)
戦前の最盛期には夏秋作を通じ8,200頭の借耕牛が讃岐山脈を越えた

阿波は水田が少なく草地が多く畑の春の農繁期が終わると、牛を讃岐に貸し、玄米で賃貸料をもらった。讃岐にとっても阿波にとっても人として生き延びる為の知恵、牛のワーキングシエアである。今でもその交流がお互いの温もりとなつて、両県のまなぶの絆で生きている。

コラム

借耕牛(かりこうし)

江戸時代後期から昭和の戦前まで、毎年春秋の耕作用の牛が阿波から讃岐山脈を越えて農家に借りられてきた。これを借耕(かりこ)牛と呼んだ。讃岐は水田地帯が多いが、牛は飼えない五反百姓が多かった。

第30回全国交流集会 2025年6月7日～8日 香川県高松市